

【別紙】ICTリテラシー育成のための基本的能力要件及び指標、育成内容一覧表

	想定する育成レベル	基本的能力要件	リテラシー育成のための指標	代表的な育成内容	利用が想定されるサービス例
タイプA	＜自己利用＞ インターネットを用いて、自己の利用目的の範囲で適切かつ安全に情報検索、収集できる知識・技能	検 索 ・ 選 択	1.利用するICT機器・サービスの基本的な情報セキュリティ対策 ＜例＞ ・「自分が利用しているICT機器のセキュリティ対策」ができる。	①ICTサービスが提供する情報のメリットを理解する。 ・国内外の多種多様な情報を誰でも容易に取得できる。 ・情報源の場所や距離に関わらず即時的に情報を得ることができる。 ・誰もが発信者になれるため、編集されていない本音の情報を得られる可能性がある。	・検索サイトの利用(例 Google、Yahoo等) ・個人・企業等のWebサイト・ブログの閲覧 ・動画投稿サイトの閲覧(例 YouTube、ニコニコ動画等) ・マイクロブログの閲覧(例 twitter等) ・電子掲示板・チャットの閲覧 ・メールマガジンの受信 ・通信教育の受講(eラーニング等) ・アンケート回答、会員になるための個人情報登録 等
			2.閲覧するWebサイト等の信憑性の判断 ＜例＞ ・「詐欺等の危険なWebサイトを回避」できる。	②ICTサービスが提供する情報のデメリットを理解する。 ・情報が流通することによって、本来の趣旨とは異なる変化をする可能性がある。 ・情報の即時性、開放性等が高い反面、情報の質は玉石混淆であり、判断が必要になる。 ・発信者の都合で情報が更新、削除されることもあるため、常に同じ情報にアクセスできるとは限らない。	
			3.進化するICT機器・サービスへの対応 ＜例＞ ・「スマートフォン等の新たなICT機器やサービスの特徴を理解」できる。	③自己責任が原則であることを認識する。 ・インターネットを巡る驚異として、ウイルス、不正アクセス等の問題を認識する。 ・最新のトラブル事例、トラブルが起きた際の相談先や対処法等を知る。 ・利用するICT機器のセキュリティ対策の不備により、時に加害者になる可能性があることも認識する。 ・基本的なセキュリティ対策が行える知識や方法を身につける。	
			4.収集した情報の適切な比較・評価 ＜例＞ ・「非常災害時の情報収集や適切な判断」ができる。	④各種サービスの特徴を見極める習慣を養う。 ・有料と無料サービスの違いを認識する。 ・利用したサービスを評価し、有効性と問題点を把握する。 ・利用するサービスの決定と選択するための基準を蓄積する。	
			(1)ICTサービスが提供する情報の特性を理解する。	①必要な情報を収集するための最適な方法を身につける。 ・必要な情報にアクセスするための効果的、効率的なICT機器やサービスを選択する。 ・情報検索に必要なキーワード、同義語、関連語を明らかにする。 ・検索された情報におけるギャップを見極めて、検索方法を変更すべきか判断する。 ・取得した情報は履歴機能やソフトウェア等で定期的、効率的に管理・保全する。	
			(2)ICTサービスを利用するに当たっての基本的な姿勢を身につける。	②新しいICT機器・サービスを活用する。 ・新しいICT機器やサービス(スマートフォンやタブレット端末等)の動向や特徴を理解する。 ・新しいICT機器へのセキュリティ対策を行う。 ・異なるICT機器間でスムーズにデータ共有を行う。 ・シームレスなインターネット環境を構築するための知識や方法を身につける。	
			(3)必要な情報に効果的、効率的にアクセスする。	①収集した情報に基づいて、目的に沿った結論を導き出す。 ・信頼性、妥当性、偏向性等を評価するために、多様な情報源から吟味、比較する。 ・情報の真偽や質を判断しかねるときは、家族・知人、専門家等に相談する。 ・新しい情報を以前の情報や知識等と組み合わせ、付加価値を生み出す。	
			(4)情報を多面的に評価し、適切な情報を選択する。	②非常災害時の情報収集手段や判断基準を確立する。 ・非常災害時等におけるICTの利活用事例やトラブル事例を知る。 ・非常災害時に有効なICT機器やサービスの使用方法を身につける。	
タイプB	＜(他者との)交流＞ メールやブログ等で、自らが情報を発信し、他者と適切かつ安全にコミュニケーションできる知識・技能	伝 達 ・ 交 流	1.他者へ配慮したネットマナーの基本の理解 ＜例＞ ・「TPO(時間・場所・場合)に応じた表現の使い分け」ができる。	①コミュニケーションツールの効果的な利用方法を身につける。 ・目的に応じてコミュニケーションツール(メール、SNS等)を使い分ける。 ・SNS等の新しいツールを利用したコミュニケーションのメリット・デメリットを知る。 ・SNS等の新しいツールによるコミュニケーションの利活用事例を知る。	・電子メールの受発信 ・電子掲示板、チャットへの書き込み ・マイクロブログへの書き込み(例 twitter等) ・SNSへの参加(例 Facebook、mixi等) ・Webサイト・ブログの開設・更新 ・動画投稿サイトへの投稿(例 YouTube、ニコニコ動画等)
			2.適切かつ安全なコミュニケーションの実践 ＜例＞ ・「SNS等でプライバシーが守られた交流」ができる。	②コンテンツ等の成果物を効果的に他者に発信する。 ・コンテンツ等を配信できるサービスの種類、特徴を知る。 ・注目度の高いコンテンツの特徴や工夫などを知る。 ・成果物の目的と想定される受け手に適したサービスと形式を選択する。 ・想定する受け手の目的に合う形式、アプリケーションで制作する。	
			3.ICTサービスの特性に応じた主体的なコミュニケーション ＜例＞ ・「著名人や遠方・疎遠になった友人・知人と交流」ができる。	③情報社会における倫理感を養う。 ・プライバシーやセキュリティに関する問題を認識する。 ・表現の自由と、違法情報の問題を認識する。 ・知的財産権、著作権の公正利用を理解する。 ・社会問題にまで発展したトラブル事例を知る。	
			1.情報社会の倫理の理解と遵守 ＜例＞ ・「違法性のある情報を見極めること」ができる。	④モラルやマナーに配慮した表現方法を身につける。 ・インターネット上での発言や表現が社会的責任まで発展する可能性があることを認識する。 ・利用する情報は、法令の範囲で入手、蓄積、発信する。 ・他者の情報を許可なくみだりに公開しない。 ・真偽が不確かな情報を流通させない。 ・TPOに応じて、表現方法などを使い分ける。 ・他者に属する制作物を自らのものとして表現しない。 ・著作権のある情報の利用に際しては、必要に応じて許諾を申し出る。 ・各サービス(マイクロブログ、SNS等)の特徴に適した表現を行う。	
		編 集 ・ 表 現	2.モラルやマナーに配慮した表現の選択 ＜例＞ ・「ブログ炎上等のトラブルを回避」できる。	⑤トラブルを拡大させない対処法を身につける。 ・正当な削除依頼があった場合は速やかに対処する。 ・表現を巡って嫌がらせ等が発生した場合は冷静な対処を行う。 ・トラブルが事件性のあるものに発展しそうな場合は警察などへ相談する。	
			3.コンテンツ制作の経験 ＜例＞ ・「動画サイトにオリジナル映像のアップ」ができる。		
タイプC	＜社会経済活動＞ ショッピング、商取引などの金銭リスクを伴う社会経済活動を適切かつ安全に行う知識・技能	消 費 ・ 売 買	1.利用するICT機器・サービスの情報セキュリティレベルの強化 ＜例＞ ・「最新のセキュリティトラブルや対応策のポイントが理解」できる。	①イーコマースの利便性を理解する。 ・世界中の商品やサービスを瞬時に購入できる。 ・怪我や病気等の際に自宅を出ることなく生活必需品等が購入できる。 ・購入履歴等の管理により、リマインド機能やリコメンド機能を有する。 ・口コミ等のユーザレビューとリンクしている。	・(金銭が絡む)クイズ・懸賞への応募 ・オンラインゲームへの参加 ・デジタルコンテンツのダウンロード購入(音楽、書籍、ゲーム等) ・インターネットショッピング(商品・サービスの購入) ・インターネットオークション ・金融取引(インターネットバンキング等) ・在宅勤務(テレワーク、SOHO等)
			2.日常生活へのイーコマース(電子商取引)の活用 ＜例＞ ・「生活必需品をインターネットでも購入」ができる。	②イーコマースのリスクを理解する。 ・個人情報等の漏洩等、情報管理体制への不安がある。 ・金銭を伴うため、詐欺を目的としたダミーサイトが存在する。 ・課金の適用範囲を巡るトラブルがある。 ・購入時に実物を直接確認できないことによるトラブルがある。	
			3.トラブル発生時における対処法の想定 ＜例＞ ・「金銭トラブルが発生した場合の対処」ができる。	③トラブルを拡大させない対処法を身につける。 ・正当な削除依頼があった場合は速やかに対処する。 ・表現を巡って嫌がらせ等が発生した場合は冷静な対処を行う。 ・トラブルが事件性のあるものに発展しそうな場合は警察などへ相談する。	
			(1)イーコマース(電子商取引)を利用する利便性とリスクを理解する。	①安全安心なサービスを見極める判断基準を養う。 ・取扱業者が「プライバシーマーク」を取得している等の個人情報保護の体制が確立されているか確認する。 ・WebサイトはSSLサーバ証明書が発行されているものが確認する。 ・利用規約をきちんと確認する。 ・有料と無料の適用範囲、課金の仕組みを確認する。	
			(2)適切なICTサービスを選択し、日常の消費経済活動に利用する。	②セキュリティ対策を強化する。 ・用途に応じて、PCやメールアドレスを使い分ける等、被害の拡大を防ぐ工夫をする。 ・パーソナルファイアウォールを導入する等、セキュリティレベルを強化する。 ・私有以外のPCを利用する際には、データや履歴等を確実に削除し、情報流出を防ぐ。	
				③日常生活にイーコマースを活用する。 ・日常生活におけるイーコマースの利活用事例を知る。 ・インターネットオークション等で商品を買う際の留意点を知る。 ・利用するサービスの決定と選択するための基準を蓄積する。	